

実りのない議論の歩み

年	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	
IWC	40回 ニュージーランド オークランド	41回 米国 サンディエゴ	42回 オランダ ノールベイク	43回 アイスランド レイキャビク	44回 英国 グラスゴー	45回 日本 京都	46回 メキシコ プエルトバイルタ	47回 アイルランド ダブリン	48回 英国 アバディーン	地域捕鯨 ワークショップ 日本、仙台	49回 モナコ モンテカルロ	50回 オマーン マスカット	51回 グレナダ セントジョージズ	52回 オーストラリア アデレード	53回 英国 ロンドン
暫定救済 枠要求	最初のミンク 鯨の暫定救済 枠要求	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目		10回目	11回目	12回目	13回目	14回目
結果	先送り 	先送り 	否決 	否決 	否決 	否決 	否決 	否決 	否決 		否決 	否決 	否決 	否決 	?
						決議 IWC/45/51		IWC決議 1995-3	IWC決議 1996-1					IWC決議 2000-1	

商業捕鯨モラトリアムが日本の沿岸で発効して、沿岸のミンク鯨操業が停止された。

国際捕鯨委員会は、第45回年次会議で、日本の4沿岸共同体の社会経済・文化的必要性およびミンク捕鯨停止の結果これら共同体に生じた困窮を認識する。次回年次会議でミンク捕鯨停止の結果生じたこれら共同体の困窮を緩和するための作業を迅速に進めることを決議する。

国際捕鯨委員会は修正行動計画(IWC/47/46)をIWCの規則に則った建設的な管理要素として認める。

国際捕鯨委員会は、以下を実施することを決議する。

- IWC/47/46に述べられた共同体ベースの捕鯨に見られる商業的側面の問題を検討する。
- 商業的側面と社会経済・文化的必要性を検討・特定するため、日本の4沿岸小型共同体における共同体ベースの捕鯨に関するワークショップを招集する。同ワークショップの結果と勧告は第49回年次会議前に開催される作業部会に報告する。

ワークショップは以下の結論となった。

- 第49回IWC本会議において、1993年の決議(IWC/45/51)に注意を喚起し、特にミンク鯨捕獲停止によってもたらされた沿岸小型捕鯨地域社会の困窮に迅速に対処することを自らの責務として決議していることに注意を喚起する。
- IWCによって採択された地域捕鯨に関する決議に関連してRMS制度の早急な完成を勧告する。
- 日本が第49回IWC本会議で行動計画の改正案(IWC/47/46)を提出するのならば、日本が本作業会議で出された行動計画に関連するコメントを改正案に取り入れることを勧告する。

国際捕鯨委員会は、ミンク鯨捕獲停止が網走、鮎川、和田浦、太地の共同体に引き起こした窮状を緩和するために、迅速に作業を行うという自らの責務を再度確認する。

第52回IWC年次総会において、いみじくもオランダの政府代表が指摘したように、IWCが7年も前に「迅速に」作業を進めることを決議しておきながら、再びそれを再確認する決議を採択せざるを得なかったという事実は、実際には「IWCが迅速に作業を進めていない」ことを意味しているのです。

小型捕鯨業者の現状

昭和63年(1988年)、全ての大型クジラの捕獲に対するIWCのモラトリアムが日本の水域で実施された結果、ミンククジラは絶滅の危機に瀕していないにもかかわらず、捕獲が停止されてしまいました。従来小型捕鯨業の経営は、主な対象種であるミンククジラ操業によって成り立っていました(毎年の捕獲頭数は300頭以上)、経営の根幹を失った小型捕鯨業は、モラトリアム直後、消滅の危機にさらされました。この時、小型捕鯨業者は、従来副次的にしか捕獲していなかったツチクジラとゴンドウクジラによって、何とか経営を存続させるしかありませんでした。これらの種は、IWCではなく日本が管理しており、科学的な資源量推定に基づいて日本政府が捕獲枠を設定しています。現在ツチクジラとゴンドウクジラの捕獲枠は合計で180頭程ですが、小型捕鯨業は、様々な経営努力を行うことによって、ようやく生き長らえることができたのです。生産コスト削減のために現役の捕鯨船を9隻から5隻へとほぼ半分にまで減らさざるを得なかったのはその一例です。小型捕鯨業者にとって、ミンククジラ操業の再開は悲願です。そもそもミンククジラは健全な資源であり、近年ではミンククジラの増加によって、沿岸漁民がミンククジラの食害を訴えるほどになっています。自分たちが捕獲している魚をミンククジラが横取りするので、水揚げ量が大きく減少し、すでにモラトリアムが原因で沿岸共同体が被っている困難に輪をかけていると主張しているのです。そんなに沢山いるミンククジラをどうして捕獲してはいけないのでしょうか？

